

136 慢性関節リュウマチにおける過テクネシウム酸SPECTによる経過観察

吉川一郎、大森薫雄、勝又壮一、奥井光敏、三井健二、武藤光明（神奈川県立厚木病院、整形外科）山本洋一、中村 豊（同、放射線科）

関節炎診断における過テクネシウム酸による関節シンチグラフィの有用性については本総会ですでに報告し、昨年は膝関節炎の活動性評価に対するSPECTの応用について報告した。今回は慢性関節リュウマチにおける経過観察について検討した結果を報告する。

東芝製GCA-901A型カメラを用い、慢性関節リュウマチ患者の膝関節像の活動病巣にROIを設定し、同部位における集積率の経時的な経過観察を行なった。

病的滑膜の集積率の推移と臨床所見、赤沈値、CRPがよく一致し、治療効果、術後経過など病勢判定にきわめて有用であった。

137 原発性良性骨腫瘍の骨・ ^{67}Ga シンチグラフィ 滝 鈴佳、利波紀久、久田欣一（金沢大学核医学科）

原発性骨腫瘍の鑑別診断上、核医学検査が持つ意義を明らかにするため、原発性良性骨腫瘍33例の骨シンチ、 ^{67}Ga シンチについて検討を行った。症例の内訳は、Histiocytosis-X 10例、巨細胞腫 5例、骨嚢腫 3例、非骨化性線維腫 2例、線維性骨異形成 2例、Borderline chondrosarcoma 2例、その他 9例であった。骨シンチについては、巨細胞腫、線維性骨異形成で強い集積を示す傾向がみられ、骨嚢腫では集積が弱いかまたは陰性の傾向がみられた。Histiocytosis-Xでは、集積の程度に一定の傾向は見られなかった。 ^{67}Ga シンチについては、骨シンチで異常集積のみられたものに、比較的軽度の集積を認める傾向が見られた。以上より、骨シンチ、 ^{67}Ga シンチは原発性骨腫瘍の鑑別診断において有用な情報を提供するものと考えられた。

138 骨シンチグラフィによる女性乳房描出について

宇野公一、養島聡、岡田淳一、吉川京子、有水昇（千葉大学放射線科） 内田佳孝、刈込正人、北方勇輔、鈴木義男（君津中央病院放射線科） 坂田昌一（千葉市立海浜病院放射線科）

骨シンチグラフィでは、正常乳房、乳房腫瘍や乳汁分泌乳房等への集積があることは周知の事実で、多数報告されているが、今回我々は448症例（乳房腫瘍213例、手術前症例94例を含む。その他の疾患235例）の全身及び、スポット像より年代別の乳房描出率を調べた。また術前乳房腫瘍側の同定が可能かどうかretrospectiveに検討した。

乳房描出率は平均40%で、20代をピークに加齢と共に減少した。乳房腫瘍側の集積増加は13%に認められたが、診断的意義は一般に低いと思われた。